

北海道といえばジンギスカンが有名ですが、今回は帯広市にある『有楽町』さんをご紹介します。ネットや口コミサイト等でも有名な焼肉店です。

私自身、食にこだわりが無く、地元北海道の美味しいものをほとんど知らずに人生を過ごしておりました。そのため、この歳になり、悔やんでも悔やみきれない気持ちでいっぱいです。

そんな私のどうでも良い話はさておき、こちらのお店、ジンギスカンだけでなくホルモンも有名だそうです。テーブルの上にジンギスカン鍋とホルモン鍋の二つセットで頂くのがスタンダードとのこと。癖が無く食べやすいジンギスカンと味噌味のホルモンを満喫し、メタボ気味のお腹もさらに成長してしまいました。

札幌営業所(所長:清水 壮次郎)

皆様いかがお過ごしでしょうか。

今回は名古屋市千種区の学習・広報施設を紹介いたします。その施設は、名古屋市上下水道局が運営している『水の歴史資料館』です(名古屋市民ですが、そんな施設が存在するとは知りませんでした…)。

名古屋の上水道が給水を開始してから100周年を迎えたのを記念して2014年に開館した施設で、東山配水場の旧東山管理事務所を改修して作られました。館内では、名古屋の上下水道の歴史を時系列的に見ることができます。最近では豪雨が多く発生しますが、浸水・地震などの災害対策についての展示も多くされています(あらためて普段から意識なくてはと感じます)。

資料館の外には、名古屋の歴代のマンホールの蓋が年代ごとにずらりと並んでいたり、大正時代のレンガ積みのマンホールなどが展示されたりしています。

私が訪れた際は、親子連れで多くの子供たちが見学に来ていましたが、子供たちに混じって見学してみるのも良いかもしれませんね。

名古屋営業所(所長:高橋 鉄夫)

KOYORAD

世界の拠点から
-From the base in the world-



国道1号線を日本橋に向かって走っていると、真正面に東京のシンボルである東京タワーがそびえ立って見えます。色々なビューポイントはありますが、私個人的にはこの景観がお気に入りです。写真ではリアルな感じをお伝えし辛いのが残念でなりませんが、しかし東京タワーの姿恰好には惚れ惚れしてしまいます。

ちなみに、東京タワーの正式名称が日本電波塔だということをご存知でしたでしょうか。いまから66年前の1958年12月の完成当時は日本一高い建物となり、さらにはエッフェル塔を抜いて世界一高いテレビ塔になったようです。また、当時の街の風景画像など見ましたが、今とは全く異なり、ビルも少なく東京タワーが足元からてっぺんまで丸見えでした。おそらく当時はとんでもないくらいに大きいものだったと思いますが、しかし建設された職人も相当の凄腕だったんだろうと思います。

東京にもたくさんの観光ポイントはありますが、やっぱり東京タワーが一番かなと思い投稿させていただきました。



東日本物流センター東日本営業本部(センター長:木下 敦裕)

大阪梅田地区もどんどん再開発され、ちょっと行かないうちに新しい施設が出来ております。梅田駅北側に出来たグラングリーン大阪、その中でも『うめきた公園』をご紹介します。

梅田駅北側の旧梅田貨物駅跡地を中心に再開発。11年前にグランフロント大阪ができ、その後も工事が進められ、うめきた公園は今年9月6日にオープンしたばかり。芝生と噴水のある公園で東京ドーム約1個分の面積があり、コンクリートジャングルだった梅田に一気に緑が増えた印象です。特に9月でも暑かった為、噴水は子供たちにも人気があり、水遊びする姿が見受けられました。公園周りにショップやレストランも出来ており、エスニック料理店やコーヒーショップも多いですが、ちょっと目を遠くに向けると高層ビル群が多く、そこから梅田だと判ります。

来年にはラグジュアリーホテル『ウォルドーフ・アストリア』がオープン予定。昔見た映画の『星の王子様ニューヨークに行く』で王様が泊まっていたホテルに近いイメージを私は持ちましたが、どんな感じになるのか楽しみです。

大阪営業所(所長:藤谷 弘行)

早速ですが、晴れた休日に第6回九州オクトーバーフェストin門司港に行ってきました。ちなみにオクトーバーフェストとは、1810年にバイエルンの皇太子の結婚を祝う競馬会で、領民にビールがふるまわれたことから始まりました。このお祭りがビールや農作物への感謝祭として根付きました。基本、屋外の広い会場で、ビールのお店やドイツの伝統料理のお店が出店され、ただひたすらビールや料理を味わい尽くすという素晴らしいイベントです(笑)。

当日は友人の車で現地に赴いていたこともあり、私自身はこれ以上になくくらいのベストコンディションでした。参加されていたブルワリーは、国内地ビールメーカーが3社とドイツビールが1種。体重のことは気にしないでいいのか、と思ったことはさておき、一店一店とビールを注文して行きました。お店それぞれの特色はありますが、地ビール特有のフルーティ感があり、プレッツェルと一緒に頂くのは最高に美味しかったです。ただ年齢のせい(?)か、沢山飲み続けることはできず、改めて無理はできなくなったと実感したイベントでした。来年も開催されるようであれば、また行ってみたいと思います。

福岡営業所・沖縄配送センター(所長:江頭 慎司)

インドネシアで一番盛んなスポーツはバドミントンでしたが、最近になってサッカーに入れ代わりました。本当はインドネシア人の多数はサッカーが大好きです。しかし、インドネシア代表チームの成績が振るわず、ここ数年はあまりインドネシアのサッカーに興味がないことがほとんどです。

インドネシアサッカー協会のリーダーには、2023年からErick Thohir (エリック・トヒル)が任命されました。エリックさんはサッカーが大好きです。そのため、インドネシアのサッカークラブのリーダーとしての経験だけではなく、海外のサッカークラブ(一番有名なのはインテル)のオーナーとしての経験もあります。エリックさんの目標としては、インドネシアが2026年のFIFAワールドカップに出場できるようにしたいそうです。そこで、国内のサッカー教育に力を入れつつ、優秀なサッカー選手たちを探し始めました。ここ最近、インドネシア人の血が流れている外国人選手(両親または祖父母どちらかがインドネシア人)を条件付きでインドネシア国籍にしてインドネシアチームの選手にしています。2~3年で10人ぐらいの選手たち、主にオランダからの選手がこのプロジェクトに参加しています。

結果的に東南アジアレベルでは試合の勝率は非常に高くなっています。ここ最近の試合では、今まで勝ったことがないサウジアラビアに2-0で勝ちました。2026年のFIFAワールドカップに出場するチャンスは少ないですが、ただ可能性はゼロではないです。今後の対オーストラリアや中国、バーレーンなどの試合で確実な結果が出ればワールドカップに出られると、インドネシア人みんなが期待しています。

KJI(インドネシア)(工場長:S.Akhyar)

～倒れそうで倒れない～

蘇州市はKHEのある工業園区、さらに西部の蘇州高新区の二大開発区が目覚ましい発展を遂げ、江蘇省で最も栄えている都市としての地位を確立しています。一方で拙政園に代表される世界遺産の庭園などがあり、春秋時代に呉の都が置かれた歴史深い街としても魅力溢れる街です。

そんな蘇州の古くからのシンボルの一つとして市内のどこからでも見える虎丘は蘇州への観光客にも人気の高いスポットです。蘇州市北部の小高い丘の上にレンガ造りの八角形の塔。48m程の高さですが、実はこの塔は北西方向に約4度傾いており、東洋のピサの斜塔とも呼ばれる実物を見るとかなり『斜めって』います。この倒れそうで倒れない雲岩寺塔は959年から961年にかけて建設されたもので、既に1000年以上の間保存されています。『史記』の記載では、2500年前の春秋時代、越王との戦いに敗れた呉王の闔閭(こうりょ)がこの地に埋葬された3日後、その墓に白い虎が現れたことから『虎丘』となったという伝説があるそうです。

私は蘇州着任当時に数回見学に行ったきりですが、出張から戻り、高速道路からこの塔が視界に入ってくると蘇州に戻ってきたことを実感します。

KHE(中国・蘇州)(総経理:山本 博史)

ハロウィーンは千年以上前から存在しています。元々は宗教的な行事でしたが、ますます世俗化し、宗教的要素は徐々に消えていきました。現在ハロウィーンは、特に子供たちにとって、ドレスアップして楽しむための日とみなされています。有名なフレーズ『トリック・オア・トリート!』とは、ドアベルを鳴らしてお菓子やキャンディーを要求する行為のことです。

近年、トリック・オア・トリートをする人の中には、トランク・オア・トリートという新しいキャンディー収集の方法が流行っています。トランク・オア・トリートは、トリック・オア・トリートに代わるものです。保護者が車を一か所(学校・教会・市民センターなどの駐車場)に集め、子供たちが車から

車へと歩き回る間、車の持ち主がトランクを開けてキャンディーを配ります。その中には、カボチャ、クモの巣、モンスターなどのテーマで車を装飾する人もいます。

戸別訪問のトリック・オア・トリートより安全な代替手段として提示されています。家と家との間の距離が遠い田舎に住んでいる人にとっては、この習慣が良い選択肢となります。

トリック・オア・トリートにしる、トランク・オア・トリートにしる、アメリカではハロウィーンに年間110億ドル以上を費やしており、クリスマスに次ぐ2番目に大きなイベントとなっています。全米小売業協会によると、キャンディーの売上高だけでも30億ドル以上と推定されています!

KCS(アメリカ)(Rholfi Eis)

『作り上げるのは簡単だが、維持するのは難しい』という言葉は、日常生活に置き換えると、まさにその通りです。新しいものを作る時、最初は良いものの、その後すぐに不適切なメンテナンスで状態が悪化するケースを何度も目にしてきました。

マリーナベイ・サンズの近くでいつもの運動をしている時に、スイレンの池で作業員が働いているのを見ました。彼らは池の中の枯れ葉や関係のないものを掃除して、水質を健全に保ち、臭いを消していました。この池を通り過ぎるたびに、スイレンが様々な美しい色(紫・黄色・白)に成長し、池の中には魚が見えます。池のそばに座ってしばらく過ごし、特にまだあまり人がいない朝に、周囲の景色を楽しむのも良いかもしれません。

メンテナンスは私たちの生活で非常に重要なキーワードです。それは人間関係を維持すること、機械を維持すること、あらゆることに関係するかもしれません。

KIO(シンガポール)(E.Wong)

ダンス・マカーブルは、エフテリングにオープンした最新アトラクションです。3,500万ユーロの投資がされ、オープン初日には多くの来場者が訪れました。人々は忍耐強く、この新しいアトラクションを体験するために4時間以上待つことを厭いませんでした。ダンス・マカーブルは、象徴的なお化け屋敷であったスプークスロットに代わるもので、来場者にさらに強化された没入型の体験をもたらします。

ダンス・マカーブルは、死と人生のはかなさを思い出させる中世の『死の舞踏』からインスピレーションを得ています。このアトラクションは、最先端のテクノロジーと不気味な物語を融合させ、サスペンス、ミステリー、不気味な美しさを約束します。この体験は、暗い廊下、古代の遺跡、恐怖と驚きを呼び起こす複雑な装飾など、不気味なほど精巧なゴシック様式の中で行われます。そして、フランスの作曲家カミーユ・サン＝サーンスの『死の舞踏』を中心に展開します。この曲は激しくリズムカルな曲調で、音楽が徐々に盛り上がるにつれて緊張感を高めます。エフテリングはこの乗り物のために回転する舞台を設計し、予測できない展開のストーリーを進んでいく中で、完全に没入できるようにしました。乗り物とともに部屋全体が傾いたり揺れたりして、別世界の幽霊のダンスのような体験ができます。

ダンス・マカーブルは、視覚効果に加えて、音、照明、風や温度の変化などを利用して、訪問者を不気味なストーリーに導きます。これは、スリルを求める人やダークな雰囲気テーマを好む人にもアピールできる、ユニークな作品としてエフテリングのカatalogへ追加になると期待されています。この乗り物は、伝統と現代の技術を融合した、エフテリングの没入型アトラクションの新たなレベルを示しています。

KIO(オランダ)(Marvin de Laat)